

キャラクター名

プレイヤー名

四条裕也

シンドローム	エンジェルハィロウ ブラックドッグ		ワークス	エグゼクティブ	カヴァー	エグゼクティブ
	オプショナル		年齢	29	性別	男
覚醒	生誕	衝動	殺戮		初期侵食率	35%
出自	疎まれた子	経験	成り上がり		邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	0	1	0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			R C			交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転：	2		芸術：			知識：			情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	4r-1		3		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
拳銃		ロイス			
		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス消費
		特異点 (シンギュラリティ)	P	N	
		神城早月	P 信頼	N 脅威	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
		最大財産P:	6	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：エンジェルハィロウ	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：判定のCRT値-SL（下限7）								
天からの眼	3	2	メジャー/リアクション	-	-	射撃	-	
効果：判定+SLD								
リフレックス：ブラックドッグ	3	2	リアクション	至近	自身	シンドローム	-	
効果：判定のCRT値-SL（下限7）								
ゲットダウン	1	2	リアクション	至近	自身	白兵・射撃	-	
効果：白兵・射撃でドッジ可								
フラッシュゲイズ	2	3	オート	視界	単体	自動成功	80%	
効果：対象の判定-SL*2D。ラウンド1回								
フルインストール	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動成功	100%	
効果：ラウンド中全判定+SL*3D。シナリオ1回								
鏡の中の人形	3	3	オート	視界	単体	自動成功	-	
効果：対象がドッジ失敗時、代わりにドッジ。シナリオSL回								
七色の直感	1	-	メジャー	視界	単体	自動成功	-	
効果：感情をオーラのように読み取る								
セキュリティカット	1	1	メジャー	至近	効果参照	自動成功	-	
効果：セキュリティを切れる								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

没落した四条家分家の次男。長男が四条家に残っていたわずかな資産を持って失踪したため、裕也にはなにも残っていなかった。しかし、裕也には不思議な体質があった。裕也が人事を尽くしたことには、必ず運が味方する。裕也はそれを知って知らぬか、まず自分自身の身柄をチップに賭けにでる。負ければ即奴隷行き、どんな目に合わせられ人身売買されるかもわからない賭けだ。裕也は徹底的に相手の事を調べた。どれほどの資産を有しているのか？なんの目的で裕也を買おうとしているのか？資産はどこから来ているのか？資産を増やすことと裕也を買うことにどんな関係があるのか？徹底的に調べても、賭けは五分五分どころか勝率一割未満といったところ。そんな時に天は彼に味方する。

彼の情報は裏社会で瞬間に広まった。誰もが裕也を使って賭けを有利に進めようとした。裕也は毎回双方の情報を徹底的に調べ、決まった主ではなく常に「勝つ方」に仕えた。正確には、賭けの勝率がどうあれ、「仕えた側が勝った」。そうして裏社会で身柄取引を成功させ、いつしか四条家を復興できるほどの資産を手にしていた。彼は裏社会で稼いだ金を「精算」と、四条家の当主を名乗り資産を利用してコネクションを作るのに奔走した。日本のあらかたの大企業のトップ、有名大学の教授だけでなく、日本銀行の取締役、さらには内閣総理大臣まで彼の知り合いと言われていた。

現在は神城グループの経営投資部門に「特別管理室」として所属している。主な業務は不良資産の清算、とりわけ公にできない組織が相手の場合が多い。神城グループの会長である神城早月がどう話を持ち掛け、どういう取引で彼をスカウトしたのかはわかっていない。ただわかっているのは、どんな事案であれ彼が担当した事案は必ず「リターンが返ってくる」ということ。

彼は時に言う。「一つアドバイスをしよう。『今すぐ決める必要はない』って言われたら、それは時間がもう敵に回っている証拠さ。」